

## 2022年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	法学部(法律学科)
モニタリングした内容	① 1年生向け入門科目としての法学入門・法学入門演習および1年生向けの憲法・民法・刑法分野の専門科目の授業のあり方やカリキュラムの組み方について ② オンライン授業のあり方について ③ 法科大学院と連携して行っている法曹コース（法曹養成）について（どの程度認知しているか、あるいは法曹コースに入っている場合には困っていること、改善すべきと考えられること、等）
今後の対応	・法学入門演習については、担当者によって内容にばらつきがあるので、改めて授業で話してほしい内容のガイドラインを担当者に渡すようにする。 ・1年生向けの科目に関して出た意見についてはカリキュラム委員会や学科会議で周知し、カリキュラムや時間割を検討し、改善の可能性を考える。また個々の授業内容について出た意見については、それぞれの分野の教員に周知する。 ・オンライン授業に関しての意見は学科会議で周知し、個々の担当者に改善の可能性を検討してもらう。 ・法曹養成コース関連の意見については法曹養成連携協議会でも検討する。
対応策の実施時期	・上記のうち、法学入門演習の内容のガイドラインは2023年度のシラバス作成依頼とともに、各担当者に配布済みである。 ・個別の授業内容に関わることについては今年度中の学科会議で伝え、可能な範囲での対応を要請する。 ・その他カリキュラム全体に関わることについては、慎重な検討を要するもの、学則改正が必要なものもあるので、対応時期を明確にはできない。
学部／概要	法学部(国際政治学科)
モニタリングした内容	・「国際政治への案内」の全般的な感想 ・同科目が入門的な役割を果たし、その後の学科での学びに役立っているか否か。 ・同科目の良い点、悪い点 ・教員が毎回入れ替わることについて
今後の対応	・毎回アクションペーパーを回収し、出席をとる ・欠席（無断、正当な理由なし）3回で、期末試験の受験資格を失う ・期末試験はレポートではなく、通常試験を実施（以前の方式に戻す）
学部／概要	文学部
モニタリングした内容	・文学部の3つのポリシーと教育目標について ・法政大学の通信教育課程に入学した理由 ・望ましいスクーリングのあり方について
今後の対応	1. 3つのポリシーと教育目標について、今後もウェブサイトや『学習のしおり』等での掲載を継続し、周知をはかっていく。 2. 通信教育課程の学生の入学動機やキャリアプランにおける本学での学習の位置づけを具体的に把握し、学生の募集やカリキュラムの設計に活用していく。 3. スクーリングについては、ただちに開講科目数を増やすのは困難だが、学生からの需要が高い必修科目、演習・実習形式の科目、メディアスクーリング科目等を中心にさらなる拡充を検討したい。 4. 春スク・秋スク・週末スクの授業の一部をオンラインあるいはハイフレックス方式で行う可能性と、その実現に必要な方策を検討したい。 5. リカレント・通信教育センター事務部とも連携しながら、各種情報をより分かりやすいかたちで学生に周知する方法を考える。
対応策の実施時期	2023年1月18日の文学部定例教授会で報告し、2月の通教関連学科連絡会議で検討を行う予定。
学部／概要	経済学部
モニタリングした内容	・オンライン授業について ・入門ゼミについて ・専門教育科目について ・1年次と2年次(以降)の教育内容について ・演習(ゼミナール)について ・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて ・経済学部の3つのポリシーについて知っているか ・経済学部の3つのポリシーが学生に浸透しているか
今後の対応	今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、学習成果の可視化の分析と合わせて今後の改善に活かしていきます。
学部／概要	社会学部
モニタリングした内容	・入学前に社会科学に関心をもつようにするためには ・一年次で学部の学びに関心をもつには ・コース選択やゼミ選択を通して専門的な学びへの関心を絞り込むには ・3・4年での学びを経験してみて、入学前後にすべきことは何だったか ・郊外型キャンパスの魅力を高めるためには ・社会学部のカリキュラムについて ・社会学部の3つのポリシーについて
今後の対応	・高大連携および学部広報のあり方について執行部と広報委員会で検討する。 ・基礎演習の内容について基礎演習担当教員懇談会で検討し、専門演習への導入のあり方については教務委員会および教授会で検討する。 ・キャンパスアメニティの向上について検討し、学部の既存の什器を活用して居心地のよい空間をつくる。
学部／概要	経営学部
モニタリングした内容	・学部のポリシーについて/各ポリシーについて知っているか ・カリキュラムについてどう思うか・要望など ・演習(ゼミナール)の制度および入ゼミ方法について ・オンライン授業について(オンデマンド・ハイフレックス等) ・資格試験や就職に向けた取り組みと大学・学部への要望
今後の対応	・FD懇談会を通じて得られた学生の意見を教員間で共有し、各授業運営の改善に向けた材料とする。
対応策の実施時期	・2022年12月2日（金）、有志の経営学部の教員に参加のもと、オンラインにてFD懇談会を開催した。

## 2022年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	国際文化学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに明記された SA に関わる項目についての学生の考え。SA参加前と参加後の考えの変化。</li> <li>・SA中に「コロナ禍」を感じた事象。</li> <li>・コロナ禍を踏まえた SA 事前指導で実際に役に立ったこと、あまり関係がなかったこと。</li> <li>・SAの成果と難しさを、コロナ禍との関係の有無と繋げた場合の考え。</li> <li>・コロナ禍での SA 実施に際して学部／学生がそれぞれ留意した方がいいと考えた点とその理由</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SAの事前指導の更なる充実化を図りつつ、不確実な状況でのSA実施に伴う予測不可能性についても併せて学生および保証人に伝える。</li> <li>・SAを経験した学生から下級生へのSA紹介を充実させて、SA先の情報のアップデートを行う。</li> </ul>
学部／概要	人間環境学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コロナ下の授業／大学生生活</li> <li>② 学部の授業・カリキュラム</li> <li>③ 学部のイメージ・見え方</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症流行も3年目に入り、一定の落ち着きがみられてきたが、なお大学生生活に支障を感じている学生もいる。そうした学生に目を配って、問題の早期発見と学習支援の充実に引き続き注力していく。</li> <li>・学部の授業・カリキュラムについては地道な改善の努力を続けるほか、カリキュラム改革案について学部内で議論を深めていきたい。</li> <li>・学部の社会連携・広報活動については、ブックレットや叢書の刊行、シンポジウムの開催などを進めてきた。今後2024年の創設25周年に向けて学部としてさらに一層力を入れていく。</li> </ul>
学部／概要	現代福祉学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業所要単位について</li> <li>・カリキュラムについて</li> <li>・入試制度・入学時の学力について</li> <li>・科目履修・各種授業科目について</li> <li>・大学・学部の留學制度について</li> <li>・各種事務手続きについて</li> <li>・多摩キャンパスの施設・設備、通学環境について</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定課外実習について学生にあまり浸透していない。よい制度なのでもっと広報した方がいいのではないか。 →新学期のガイダンスの時に説明を追加する。</li> <li>・卒論の履修登録が分かりづらく、「その他」の中に小さく「卒論」というのが入っており、混乱した学生がいた。 →新4年生のガイダンス時に今までよりも詳しく説明をする。</li> <li>・EGGドームに車いすを借りられる場所があるといい。キャンパスまで坂がきつく、骨折をした友達がキャンパス内の移動に困っていた。 →EGGドームに車いすを置いてもらえるよう要望を出す。</li> <li>・学部の中でコピーカードを売っている場所があまり学生に周知されていない。 →新学期のガイダンス時に説明を追加する。</li> <li>・現代福祉学部の食堂を早く再開して欲しい。 →生協に再開の要望を出しているが、採算の問題で再開時期は未定である。</li> </ul>
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定課外実習について学生にあまり浸透していない。よい制度なのでもっと広報した方がいいのではないか。</li> <li>・卒論の履修登録が分かりづらく、「その他」の中に小さく「卒論」というのが入っており、混乱した学生がいた。</li> <li>・学部の中でコピーカードを売っている場所があまり学生に周知されていない。</li> </ul> <p>上記3点については、2023年度4月のガイダンスで追加の説明を行うようにする。</p>
学部／概要	情報科学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応がなくなったときに大学に期待すること（授業面、授業外のキャンパス活動、その他）</li> <li>・コロナ対応策に対する不満、改善案</li> <li>・大学生生活で期待外れだったこと</li> <li>・大学生生活で困っていること</li> <li>・その他</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学のオンデマンド科目の卒業単位認定</li> <li>・オンデマンド科目の新設</li> <li>・GBC のイベントへの支援</li> <li>・コロナ対応策の検証と改善案策定</li> </ul>
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学のオンデマンド科目の卒業単位認定は今年度実施済</li> <li>・オンデマンド科目は来年度の2年生秋 semester 科目として開講</li> <li>・その他は来年度実施を目指して検討に入る</li> </ul>
学部／概要	キャリアデザイン学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学部への入学の動機</li> <li>・入学時の目標・期待</li> <li>・入学後の実感</li> <li>・これまでの授業を振り返って</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム全体と各科目の内容を見直し、入門科目、展開科目の段階を明確化するとともに、展開科目の一部を上級科目として設定する。</li> <li>・上記と合わせ、展開科目の内容の再確認と見直し、及び一部の改廃により、過剰な内容重複を解消する。</li> <li>・講義形式のものも含め、グループワークやグループディスカッションをより積極的に導入する。</li> <li>・1年次の基礎教育（基礎ゼミ）について、現在実施しているクラス間での内容の平準化を徹底する。</li> </ul>
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入門～展開（中級）～展開（上級）までの科目の再位置づけや一部科目の改廃については、2023年度にカリキュラム全体を踏まえて検討を進め、2024年度または2025年度から実施する。</li> <li>・科目間での内容の重複に関しては、2022年度中より、内容が隣接した科目の担当者間で確認をし、改善が必要と判断された部分について2023年度または2024年度から実施する。</li> <li>・各科目におけるグループワーク、グループディスカッションのより積極的な導入については、2022年度中より、学習効果の点から実施が望ましい科目を、科目担当者を中心に検討したうえで、2023年度または2024年度から実施する。</li> <li>・基礎ゼミについては、2022年度中に担当者間で情報共有のうえ、2023年度から実施する。</li> </ul>

## 2022年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	理工学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学経路（付属校／指定校出身）でよかった点、苦労した点</li> <li>・自分の学科のカリキュラムについて</li> <li>・大学の設備について</li> <li>・オンライン授業について</li> <li>・自由意見</li> </ul>
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（入学経路）詳細を各学科に伝え、学生指導の際に留意する要素とする。</li> <li>・（カリキュラム）詳細を各学科に伝え、履修指導や次回のカリキュラム変更において参考にする。</li> <li>・（設備）情報関連の話題について、情報センター運営委員会に情報共有する。</li> <li>・（設備）資料電子化の意見について、図書館と情報共有する。</li> <li>・（オンライン授業）意見を集約し、オンライン授業が将来必要とされた時の資料とする。またオンライン授業を通して有用性が確認された一部ツールの今後の活用を検討する。</li> </ul>
学部／概要	生命科学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の3つのポリシーについて</li> <li>・生命科学部のカリキュラム・ツリーおよびカリキュラムマップについて</li> <li>・TA、ラーニング・サポーター制度について</li> <li>・リメディアル教育（教養科目、プレースメントテスト、TOEIC-IPテストについて</li> <li>・SA、ERPについて</li> <li>・情報教育（授業、貸与PC、大学の設備）について</li> <li>・実験・実習科目について</li> <li>・オンライン講義について</li> <li>・研究室配属について</li> </ul>
今後の対応	<p>指摘事項について、専任教員間で情報を共有し、学科会議や高大連携委員会などで対応策を検討する。また、学生生活課にも連絡して、小金井学生委員会での議論を通じて改善を要望する。さらに、教養・専門教育連携委員会の場でも議論し、改善策を検討する。</p>
対応策の実施時期	<p>プレースメントテスト、ラーニング・サポーターおよびTA制度等については、月2回ほど開催される学科会議や、年4回程度開催される高大連携委員会で検討する。また、英語教育をはじめとする教養教育に関しては、教養・専門教育連携委員会で検討する。</p>
学部／概要	グローバル教養学部（GIS）
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目について (Required courses)</li> <li>・科目の選択について (Elective courses)</li> <li>・授業の質について (Regarding the quality of education at GIS)</li> <li>・セレクションについて (Regarding course selection)</li> <li>・Seminarについて (Regarding seminars)</li> <li>・留学について (Regarding studying overseas)</li> <li>・就職支援について (Regarding careers support)</li> <li>・3つのポリシーについて (Regarding the GIS Diploma Policy)</li> <li>・サティフィケートプログラムについて (Regarding the certificate programs)</li> </ul>
今後の対応	<p>Opinions obtained through monitoring will be shared with all faculty members and utilized for improvement as much as possible.</p> <p>(1) We will continue to aim to reduce differences in the content of Academic Skills Subjects among instructors.</p> <p>(2) We will continue to inform students about the necessity of selection and seek their understanding.</p> <p>(3) Regarding the study abroad system, we will consider sharing information on the study abroad system through the GIS website and social media.</p> <p>(4) Through the GIS website and social media, students will be made aware of the three policies, and explanations will also be given at entrance orientations, etc., to guide students to use them in their studies at GIS.</p> <p>(5) We will continue to strengthen career education within the faculty and offer more career guidance.</p>
学部／概要	スポーツ健康学部
モニタリングした内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在のハイブリット授業について</li> <li>2. 大学の感染症対策について</li> <li>3. コロナ禍によって日常生活にどのような影響があったか？</li> <li>4. スポーツ健康学部のポリシーについて</li> <li>5. 就職活動について</li> </ol>
今後の対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在のハイブリット授業について 少人数学部であること、実習が多いという特性を活かし、原則対面授業を進めていくが、ハイブリッド又はオンライン授業のメリットも想定されることから、状況に応じたハイブリッド又はオンライン授業の展開も残していく。</li> <li>2. 大学の感染症対策について 学部での感染症対策については、対面授業と感染制御の両立が実現できており、今後も継続して取り組んでいきたい。 通学のために利用するバスの3密問題については、多摩キャンパス構成学部として、その解消のために引き続き他学部と連携し方策を探る必要がある。</li> <li>3. コロナ禍によって日常生活にどのような影響があったか？ 友達を作る機会が途絶えたコロナ禍での経験を踏まえ、感染症対策は前提としながらも、教員側が学部でのイベントやクラス単位での企画を開催することで、学生間の関係づくりの一助になるよう共通理解を図っていく。</li> <li>4. スポーツ健康学部のポリシーについて 学生に対してポリシーを読み上げることで、それに沿った学びが出来ているとの意見が多かったことは重要と考える。学習活動の成果として、学部が提供するポリシーの意図が学生側に対して実感できることを今後とも目指す。</li> <li>5. 就職活動について 就職活動については、学部が地理的にキャリアセンターから遠くに位置し、キャリアセンターの活用状況も他学部と比較して低いとの指摘もある。このため、1年次のスポーツ健康学入門のなかで、キャリアセンターの協力を得て、1コマ講義を依頼する。</li> </ol>
対応策の実施時期	<p>5については、2023年度のスポーツ健康学入門の中で、オムニバスの1コマ分について講義いただく。</p>

学部／概要	市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC)
モニタリングした内容	①ILAC科目の体系化に対する認識について ②教養ゼミとして開講してもらいたい科目について ③文理融合を図る初年次教育の在り方について ④ILAC科目と学部専門科目の融合について
今後の対応	・ILAC運営委員会の場を通じて学生の意見に関する認識の共有を図り、将来的なカリキュラム改革に向けての参考資料とする。 ・教養ゼミや初年次教育の改善については、学生の意見を参考にしつつ検討し、実現可能なところから取り組んでいく。 ・ILAC科目の体系化や教養ゼミに関する学生の認識を高めるために、学習支援システム等を通じて学生への周知を徹底するとともに、より分かり易いガイダンス資料を配布することで対応を図る。
対応策の実施時期	・ILAC科目の体系化や教養ゼミに関する学生への周知は、新入生に対しては新入生オリエンテーションの際に行い、また在学生に対しては旧年度末から新年度初めにかけて周知を複数回実施する予定。 ・教養ゼミや初年次教育の改善の検討については、2023年度中に行う予定。
学部／概要	小金井リベラルアーツセンター (KLAC)
モニタリングした内容	・履修・カリキュラムについて（教養系科目の履修選択、履修制度に対する希望・要望、高校までの学習や専門科目との接続など） ・各科目の印象について （人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語）、リテラシー系、数学系、理科系） ・オンライン授業について（授業形態のメリット、デメリットなど） ・語学教育について（英語必修授業の内容など） ・サポートについて（履修案内、TA、ラーニングサポーターなど）
今後の対応	・今回寄せられた意見を各分科会の専任教員で共有し、理工学部・生命科学部の関係部門とも連携して、改善策を検討する。とくに履修の案内については、『履修の手引き』の記載内容を工夫するなどして、さらにわかりやすく学生に情報を提供できるようにしていく。また、学習支援ラーニングサポーター、TA、Gラウンジなどについて、広報のいっそうの充実を図る。
学部／概要	スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)
モニタリングした内容	・「競技力向上」にインスティテュートが貢献しているか ・「人間力向上」（人生全般にわたる）にインスティテュートが貢献しているか ・SSIで開講している科目に不足はないか ・特にどのような科目が有意義であると感じているか ・オンライン科目導入をどのように考えるか など
今後の対応	全ての意見に対応できる訳ではないが、現在新カリキュラムの編成を進めていることから、特に不足が指摘された科目を充実させていきたい。同じ部のメンバーとコミュニティが閉鎖されている点については、体育会に所属していない学生と交流する機会を模索しつつ、アクティブラーニング形式の科目展開を意識するなど、まずはSSI生のなかで他種目や学年と触れ合う機会をつくる。 オンライン開講については、現況、卒業所要単位にカウントできる上限が設けられているため、対面授業の質を高めることに重きを置きながら、その様子をビデオ録画してアーカイブするなど、SSI生が柔軟に学習することのできる環境づくりに努めていきたい。
対応策の実施時期	正確なスケジュールを提示できないが、新カリキュラムが始動する2024年度に向け、鋭意努力していきたい。